

## 学校経営推進費 評価報告書（最終）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

|        |   |
|--------|---|
| 実施課程名  | 支援学校 職業コース  |
| 取り組む課題 | 生徒の自立支援   |
| 評価指標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業コースの生徒数の増加</li> <li>・生徒の授業満足度数の向上</li> <li>・保護者の学校評価向上</li> </ul> |
| 計画名    | 西浦支援 夢のお仕事プロジェクト  |

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

|              |   |
|--------------|---|
| 学校経営計画の中期的目標 | <p>2 キャリア教育の充実<br/>         (2) 地域のリソースを有効に活用することで作業学習や職業コースの授業の充実を図り、関係機関や商業施設、地域事業所等と協働した事業の創設をめざす。</p>   |
| 事業目標         | <p>本事業を活用し、水耕栽培を導入することでより強力に本校の教育力向上をめざす。<br/>         体育館1階の屋内作業室内に水耕栽培設備を導入し、年間を通じて作物を栽培、収穫するシステムを構築することにより、天候に左右されずにより安全に実習を行い、生徒の自立支援を促進する。水耕栽培を活用することで定期的に作物を収穫することができ、学校行事、駅前や道の駅での定期的な販売実習に取り組み、生産から消費者に手渡すまでの過程をトータルで学び、同時に本校生徒が地域住民に対し貢献できることを示す。<br/>         他に、以下の3つの効果が期待できる。</p> <p>①生徒一人ひとりが種の植え付けから収穫までを一貫して行うことで、直接作物の生産から成功体験や失敗体験（丁寧に作業することで作物が収穫できること、作業が雑になれば作物は枯れること）を経験し、生徒の目標設定と課題解決に対する取り組みについての理解を促進する。<br/>         ②生徒一人一人の実態に応じた授業のスタイルを構築できる。<br/>         ③社会に対して、新しい障がい者雇用の形を提示できる。適切な環境があれば、障がいのある人も様々な職種での就労が可能であることを示すことができる。</p> <p>取組みの様子は随時ホームページや「学部通信」にて学校の内外に発信していく。取組みを全校的に発信していくことで、小・中学部の児童生徒に対し、就労に対する意欲向上をはかり、学校全体のキャリア教育力向上にも寄与できる。</p>                    |
| 整備した設備・物品    | 水耕栽培システムユニット・水耕栽培用ウレタンチップ等の消耗品・水耕栽培用空調機   |
| 取組みの担手・実施者   | <p>主担：高等部実習担当教員<br/>         取組みの実践者：実習担当教員。職業コース担当教員。販売学習は高等部全教員。</p>  |
| 本年度の取組内容     | <p>(高等部2年 生活コース60名 「職業」の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培サイクルの安定化<br/>             昨年度の栽培サイクル記録の結果を受け、秋以降の栽培について播種・定植時期について改善を行った。特に昨年度は冬季の播種～発芽が思うように進まず、定植後の水草の生育状態に課題が残った為、寒さ対策として温度管理の可能な育苗器を導入し改善を図った。結果、春～夏期とほぼ変わらない播種～定植期間を実現することができた。また、授業内容の栽培管理を少し拡大させ、水質管理に伴う溶液のPH管理なども行った。</li> <li>・校内販売から地域向け販売への拡大<br/>             今年度は、地域向けの販売を2月に3回実施した。販売種目は冬季でも比較的栽培しやすい「小松菜」と「サラダ水菜」の2種目とした。一部急な気温低下のため生育不良で見込みのサイズより小型になったが、販売については好評で水耕システム8機がフル稼働しても足りないほどであった。</li> <li>・校内での水耕栽培システム活用の拡大<br/>             今年度は小学部1・5年生を対象に、自分達で播種した水耕用ウレタンスポンジを実際に水耕レーンに定植する共同学習を高等部2年生と行った。また、西浦フェスティバルではワークショップで来校者に対して、生徒がレクチャーを行う形で播種と定植体験を実施するなど、水耕栽培システムを活用した職業教育の拡大が実現できた。</li> </ul> |
| 成果の検証方法と評価指標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の授業アンケート：肯定的な意見（実習についての「A: そう思う」「B: だいたいそう思う」の合計）を65%以上にする。</li> <li>・保護者の学校評価：肯定的な意見（下記の内容の「A: よくあてはまる」「B: ややあてはまる」の合計）を50%以上にする。</li> </ul> <p>⇒【学校教育自己診断】の「学校は特色のある教育活動に取り組んでいる。」「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。」の質問項目の結果を代用する。</p>   |
| 自己評価         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の授業アンケートは目標の65%を上回ることはできなかったが、小学部児童への体験授業の実施や西浦フェスティバルでの来校者に向けてのワークショップ、2月の「にしうらしえんマルシェ」（地域向け販売）など、販売活動を通して生徒が主体となり他者に働きかける授業内容を大きく拡大させることができ、参加者からは好評をいただいた。</li> <li>・保護者の評価としては学校教育自己診断の「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。」については肯定評価63%で昨年比+3%という結果となり、目標の肯定的な意見50%以上を継続させることができた。また、「生活、作業学習、職業コースなど職業教育に関する授業は充実している」という項目に対しては63%の肯定評価を得た。(◎)</li> </ul>  |
| 事業のまとめ       | <p>本事業の導入により、職業コース生の参加だけでなく、特にこの2年間は「屋内型水耕栽培」という特徴も手伝い、生活コース生を中心とした学習へと広がりを見せ、高等部全体の参加が実現した。特に、1年間の学習の中で「播種～販売」までのサイクルを何度も体験することができるようになり、昨年まで年間数度だった販売学習の数が今年度はさらに増え、より実践的な学習内容になった。また、販売学習の地域への拡大により、保護者だけでなく、地域の方など初めて出会う方との交流も増え、生徒達が自主的に大きな声で呼び込みをしたり、お客様の顔を見て「ありがとうございます」と笑顔で応対するなど、活き活きとし自信にあふれた様子などが見られ、生徒自身の職業感が変化していると実感した3年間であった。また、生徒・保護者のみならず、地域の方や各種関係機関とも「水耕栽培」という新たな取組みを媒体として繋がる機会が増え、学校全体としても地域社会に広がることになった。</p> <p>今後は、地域向けの定期販売に向け、安定した計画的栽培と収穫、お客様の視点に立った作物や販売の研究など生徒の可能性を押し広げる授業に挑戦し、「西浦支援ブランド」としての地域への定着をめざす。</p>   |